

「サイバーセキュリティシンポジウム道後2020」をオンライン開催

四国総合通信局(局長:野水学)は、サイバーセキュリティシンポジウム道後実行委員会(委員長:小林真也 愛媛大学大学院教授)と連携し、令和2年9月17日(木)~18日(金)の2日間、「サイバーセキュリティシンポジウム道後2020」(以下「SEC道後」という。)を開催しました。

SEC道後は、セキュリティレベルの向上と地域におけるサイバーセキュリティ人材の育成のため、産・学・官の専門家を招き、サイバーセキュリティに関する最新情報の共有や意見交換を行う全国有数のセキュリティイベントです。

9回目となる今年のシンポジウムは、コロナ禍におけるサイバーセキュリティの在り方を探るため、「ニューノーマルとセキュリティ」をテーマとして、初めてオンライン形式で開催しました。

シンポジウムでは、新たな生活様式におけるサイバー攻撃の脅威とその対策等について、サイバーセキュリティ分野の第一線で活躍されている専門家の方々による講演やパネルディスカッションのほか、個別のテーマに分かれての参加型セッションなどを行いました。

2日間で、のべ約800名の教職員や学生、企業や一般の方等が聴講し、サイバーセキュリティに関する最新の動向や知識に触れていただくことができました。

参加者からは、「普段は聞けない講師の話を聞くことができよかった。」、「気軽に参加できてよかった。」、「パネルディスカッションで有識者の方々の意見交換を楽しく視聴させていただけました。」など、参加者にとって有用であった旨の感想をいただいた一方で、「オンライン開催であることから気軽な意見交換が困難」など現地集合による開催を求める声も寄せられました。

四国総合通信局では、今後も地域の関係団体と協働し、セキュリティに関する意識やレベルの向上につながる取組を実施し、広くICT(情報通信技術)が社会全般に普及する中でのサイバーセキュリティの応用と安心・安全な利活用を推進します。



講演の様子



オペレーションの様子



四国総合通信局での聴講の様子